

令和3年度の溶岩ドーム観測について

令和3年度 雲仙岳火山防災協議会



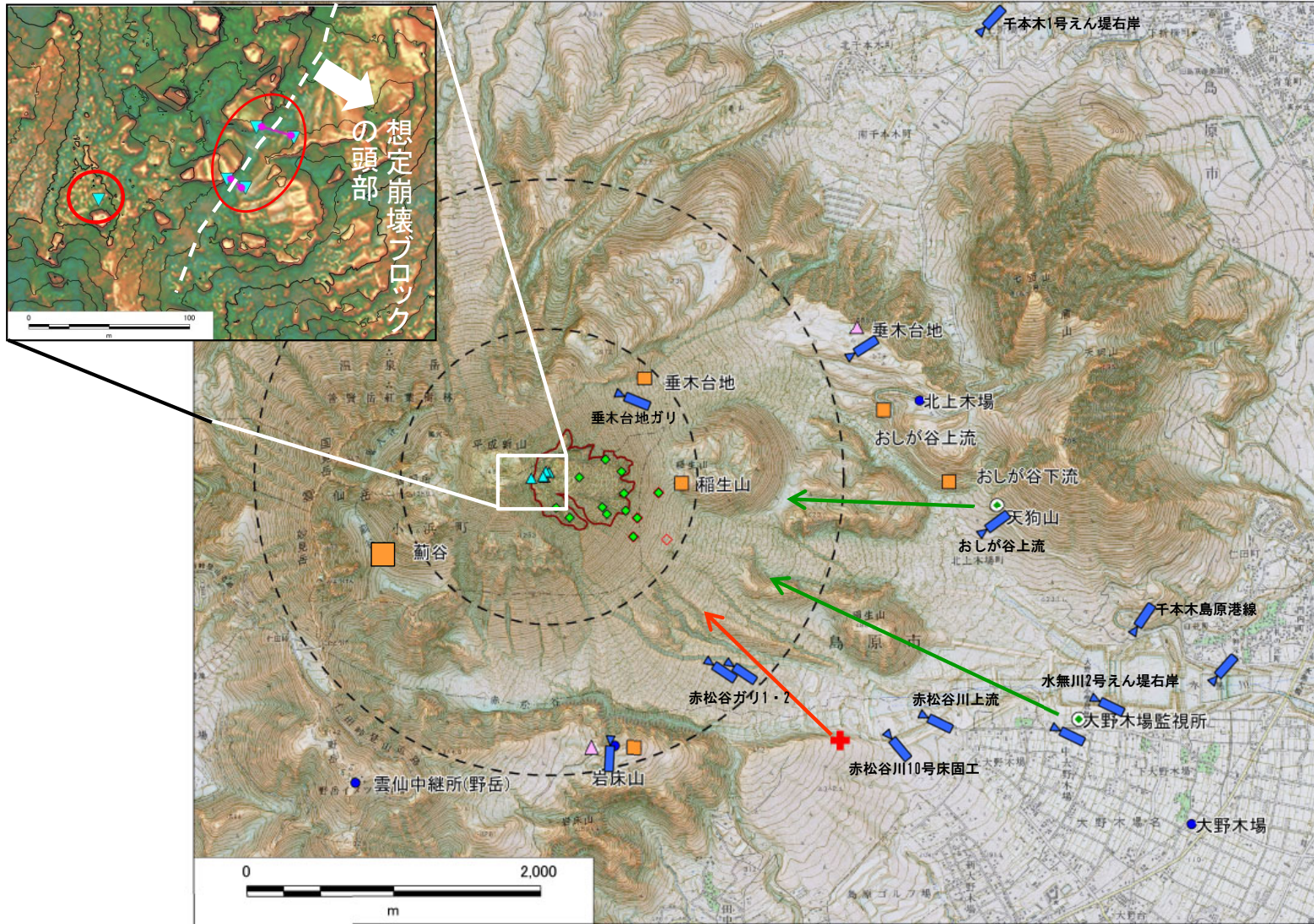
令和4年2月25日



国土交通省九州地方整備局
長崎河川国道事務所雲仙砂防管理センター

1. 監視・観測体制の概要

- H28年度以降、現在の観測体制を継続。

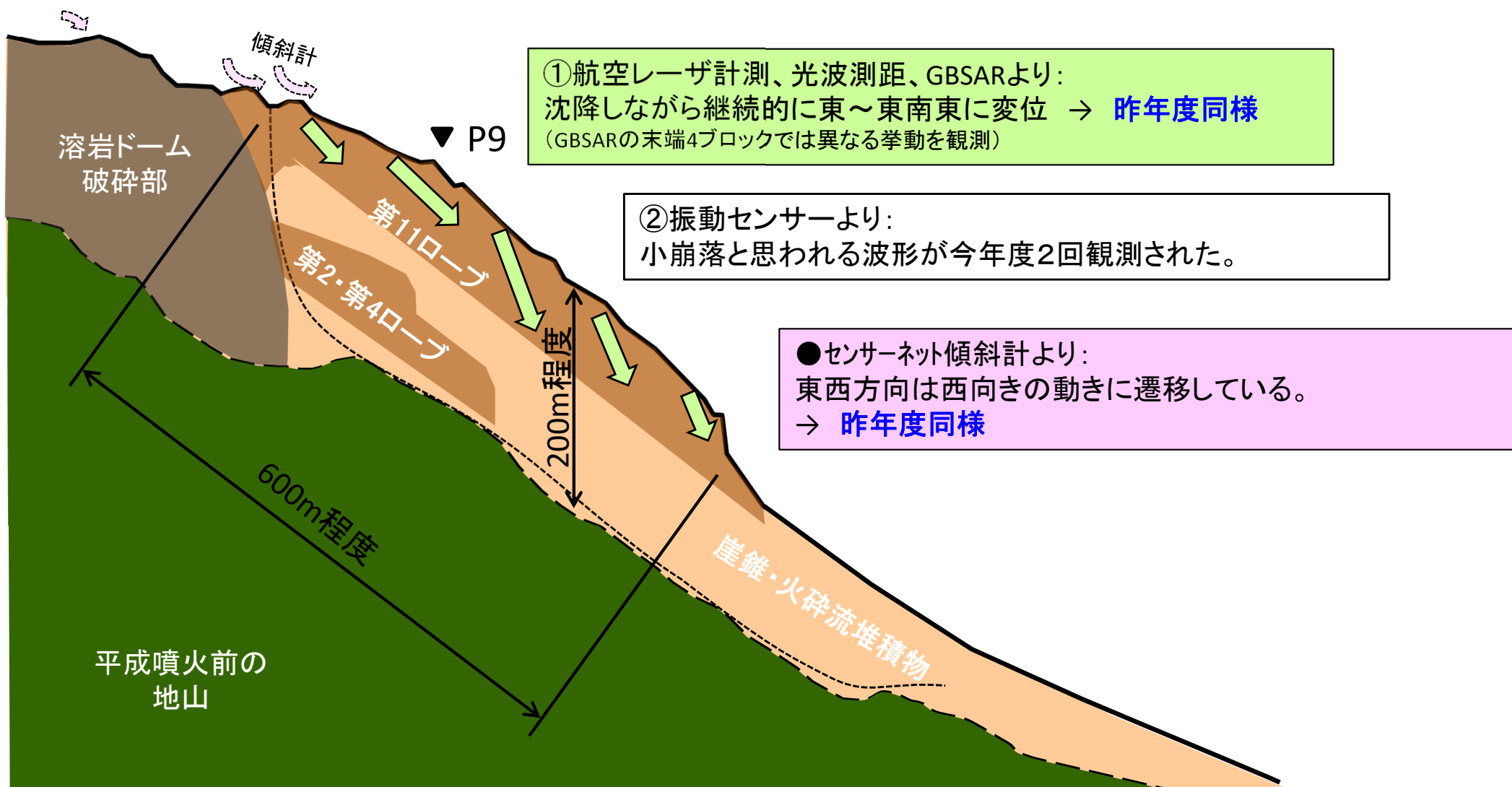


- 凡 例
- ◇(緑) 光波測距観測器 (トータルステーション)
 - ◇(緑) 光波測距ターゲット (プリズム)
 - +
 - ◇(赤) GBSARターゲット (コーナリフレクター)
 - (黄) 振動センサー
 - △(紫) 震度計
 - △(青) センサーネット傾斜計
 - (粉) 光ワイヤーセンサー
 - ▶(青) 監視カメラ
 - (青) 雨量計
- ※振動センサー・地震計ともに振動波形を観測するもの。震度計は波形ではなく震度のみを観測するもの。

種類	光波測距	GBSAR	振動センサー	震度計	センサーネット傾斜計	光ワイヤーセンサー	雨量計	その他の観測・測量
目的	溶岩ドームの変位を計測する	溶岩ドームの変位を全天候で計測する	地盤振動をリアルタイムに検知する	地震の震度を計測する	溶岩ドーム地表面の傾斜を計測する	想定崩壊ブロック頭部の破断を検知する	土砂移動の誘因としての雨量を計測する	航空レーザ計測や現地測量により溶岩ドーム周辺の変位を計測する

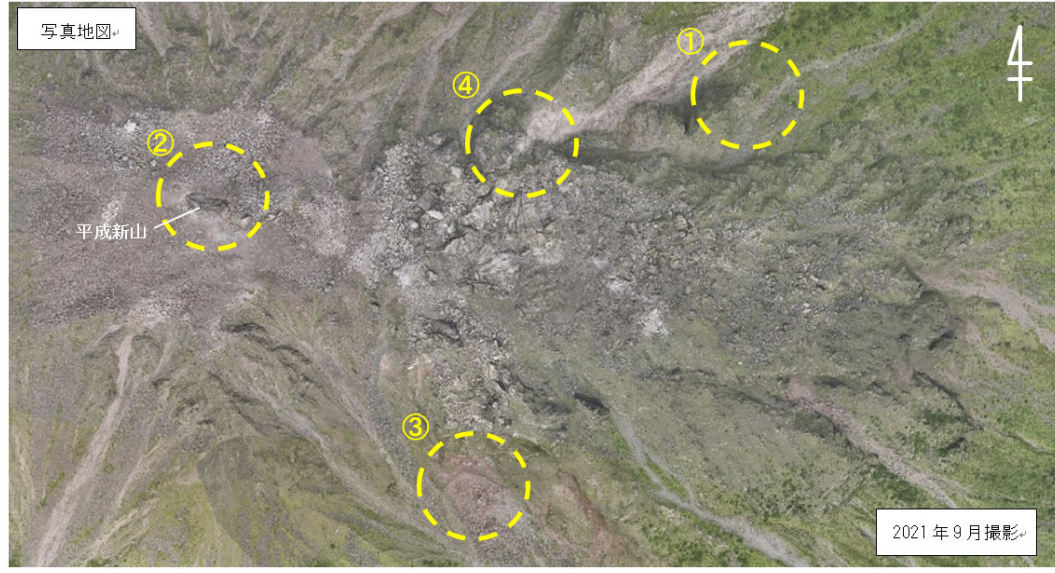
2. 第11ローブの挙動の概要まとめ

- 概ね例年と同様の变化傾向が継続し、**従来と大きな変化はない。**
- 全体として沈降しつつ東南東方向へ変位している。
- GBSARの末端4ブロックの観測結果は斜距離が大きくなる挙動となっている。



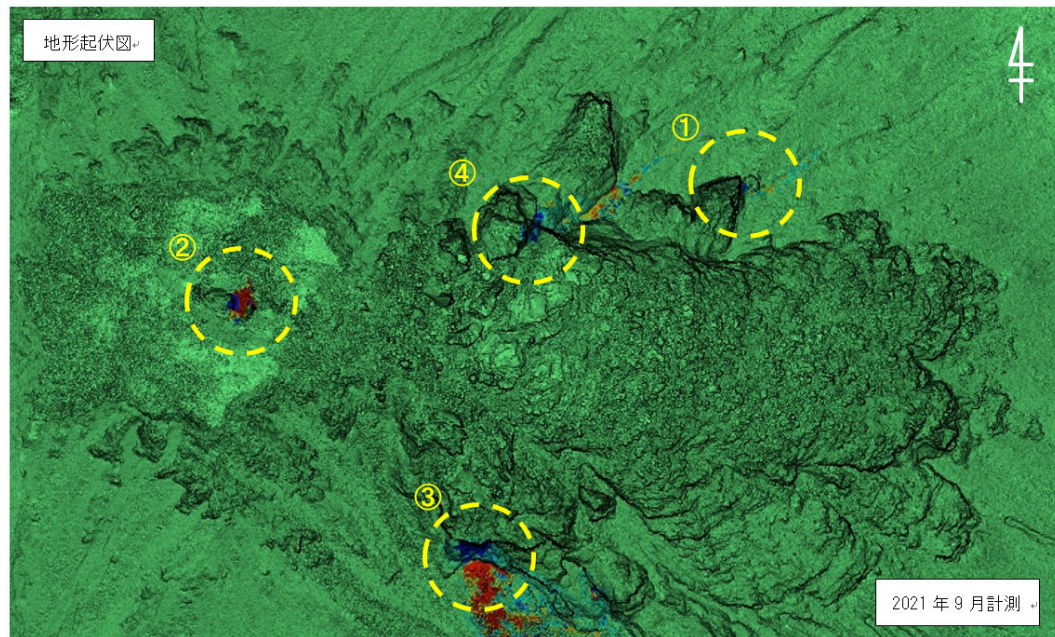
3. 今年度発生した小崩落について

■小崩落箇所(垂直写真)



- 本年度9月までに溶岩ドームにおいて4箇所の小崩落が確認された。
- 平成新山山頂の岩尖の一部が崩落したほか、溶岩ドーム縁辺部の急崖地形で崩落が発生した。
- いずれも、市街地等への影響はない。

■小崩落箇所(差分図)



■小崩落諸元

	小崩落①	小崩落②	小崩落③	小崩落④
発生日(推定)	2021/4/27	2021/6/4	2021/6/22	2021/9/5
幅	10m	17m	40m	20m
高さ	33m	25m	38m	75m
崩壊土量	300m ³	1520m ³	5200m ³	700m ³
崩壊面積	120m ²	200m ²	580m ²	550m ²